

## コロナ禍での遠隔学習と寮生活について Remote Learning and Dormitory Life in COVID-19

八戸高専 ○吉田 雅昭

NIT, Hachinohe Coll. °Masaaki Yoshida

E-mail: yoshida-g@hachinohe-ct.ac.jp

**【背景と目的】** 八戸高専は、2015 年から 4 学期制を導入し、全学生が自主探究に取り組んでいる。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、学校および学寮の運営に工夫が求められた。幸いにも八戸地域は年度当初、感染者が少なく、その対策を練る時間があった。本稿では、本校の特徴を活かしつつ、コロナ禍で工夫したことなどその対応について述べる。

**【実施内容】 授業について** まず、入学式後に全学生が授業ガイダンスやメールアドレスの登録のために分散登校した。次に、学生は自宅学習および遠隔授業の事前テストを兼ねた模擬遠隔授業に参加した。この間、教員は授業動画の作成に取り組み、4 月下旬から本格的な遠隔授業を開始した。遠隔授業は全国の国立高専が共通利用する授業支援システム Blackboard を利用し、時間割通り進められた。さらに、遠隔授業と並行して GW 明けには自主探究もスタートさせた。図 1 は自主探究 Day1 の様子である。図のようにコーディネーター教員は 4 人 1 組の班を巡回し、Microsoft Teams の使用方法から探究の進め方について指導した。合計 6 週間の遠隔授業を経て、6 月上旬から対面授業を開始した。

**寮について** 男子は 3[人/部屋]、女子は 2[人/部屋]が寮の基本構成で、男子寮がいわゆる 3 密となる。一旦入寮を決めた学生にも改めて同意書で入寮意志を確認し、再度、部屋割後、5 月末の入寮となった。また、寮全体の 3 密回避のため、入浴および食事の分散、宿直者が各棟のフロアを巡回する点呼から Blackboard で検温と点呼を同時に行う方法に変更した。

**【結果】** 図 2 は、アンケート結果の一部である。同図から、学生は遠隔授業に対して 6 割程度が肯定的であった。一方、教員は授業準備に莫大な時間を費やすため対面がよいと回答した。教員の回答などその他の結果は、当日の発表で述べる。

### 【参考文献】

(1) 自主探究活動とは <https://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoollife/messageboard/forms03.php>



図 1 自主探究 Day1 の様子  
(八戸高専 HP から)

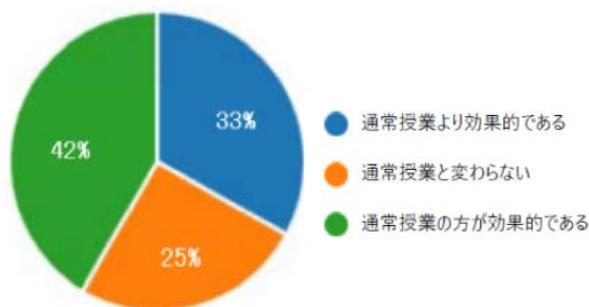


図 2 遠隔授業と通常授業との比較  
(学生回答数 n=865)